

Vol.15
2020年
秋・冬号

上町台地 今昔タイムズ

企画・編集：U-CoRoプロジェクト・ワーキング
(CEL弘本由香里、B-train橋本護・小倉昌美)
http://www.og-cel.jp/project/ucoro/index.html

発行：大阪ガス エネルギー・文化研究所 (CEL)
※U-CoRo=ゆーころ (上町台地コミュニケーション・ルーム)
問合せ先：tel.06-6205-3518 (担当：CEL弘本)

「上町台地 今昔タイムズ」とは

わたしたちが暮らす「上町台地」。古代から今まで絶えることなく、人々の営みが刻まれています。天災や政変や戦災も、著しい都市化も経験しました。時をさかのぼってみると、まちと暮らしの骨格が浮かび上がってきます。自然の恵みとリスクのとりえ方、人とまちの交わり方、次世代への伝え方…。過去と現在を行き来しながら、未来を考えるきっかけに、U-CoRoプロジェクト第2ステップでは、壁新聞「上町台地 今昔タイムズ」を制作いたします。

遥かなる社会福祉の源流から、激動の近代を支えた社会事業の奔流へ、その先へ...

社会の実際の問題を調査・研究すべし！



大原孫三郎 (1880～1943)

岡山の大原美術館や多方面にわたる社会事業で知られる大原孫三郎は、全国で勃発した「米騒動」の翌年、1919年2月、大阪・上町台地に大原社会問題研究所を設立。彼の構想は、社会問題の本質を明らかにし、技術的な解決につなぐ科学的研究機関を目指すものだった。

実業家、大原孫三郎、上町台地に大原社会問題研究所を開設 (2面地図④)

1919★7
大正8年



1920年に四天王寺の西側、伶人町に新しく建設された研究所 (法政大学大原社会問題研究所蔵)

1909 明治42年 ★2
石井十次 愛染橋を拠点に孤児救済事業を進める (2面地図②)



石井十次 (1865～1914)

岡山で孤児院などを運営していた石井十次は、大原孫三郎の支援のもと事業を展開。やがて大阪に孤児救済のための拠点を設け、1909年には託児所、夜学校、隣保事業などを開始。石井の死後、大原はその私財を投じて1917年、石井記念愛染園を設立した。

大阪で全国初、市立児童相談所、託児所を開設！



1919★5
大正8年

池上四郎市長 福祉政策を積極推進

池上四郎は、1913年から3期、大阪市長をつとめた人物。池上は都市整備を進める一方で教育施設や病院の整備など、社会福祉の充実にも取り組み、1919年、全国初の児童相談所、公共託児所を開設した。同時に、助役の関一(のちに市長)を委員長に大阪の都市計画事業の推進にも努めた。

池上四郎、大阪市長に就任 第一次世界大戦(～18) 1914

林市蔵、大阪府知事に就任 1917

米騒動 全国に広がる★3 1918

大阪府方面委員制度発足(のちの民生委員制度のはじまり)★4

大阪府立児童相談所及び市立託児所開設★5

大原孫三郎が大原社会問題研究所開設★7

大阪市営の住宅供給及び市営共同宿泊所開設

北市民館開設(市立市民館、初の公営セツメント)★8

市立堀川乳児院開設

初の点字新聞(大阪毎日新聞社が「点字大阪毎日」として発行)

大阪市立協会設立(月刊誌「大阪」創刊)

※1 仮病院では診療と医療教育を行った

※2 感化院とは今日の児童自立支援施設

※3 遊病院は当時の感染症専門病院

※4 セツメントは隣保館と呼ばれる地域福祉の拠点

早瀬昇氏 (社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長)

江戸時代の大阪では、町橋や堀割の整備など、町人の方で社会基盤の多くが整備されてきた。こうした伝統は近代になっても引き継がれて、多くの社会事業や市民活動が大阪から始まって全国に普及していった。その際、民間が、企業や行政と連携して事業を推進したのも大阪の特色と言えるでしょう。

明治時代以降、近代の大阪では、都市化と急激な工業化の進展により、貧困や健康、教育面などで、さまざまな社会問題が頻発しました。そんなとき困っている人を見て「ほっとかれへん」と思ったら、すぐに行動を起こす人が出てくるのは、大阪の風土や大阪人の気質だとと言えるかも知れません。実際、明治時代の災害救済金や大正時代の方委員(のちの民生委員)をはじめ、戦後でも病院ボランティア、ボランティアセンター、救命救急センター、ホスピス、コミュニティ財団など、今に続く社会課題解決への取り組みが、数多く大阪で生まれてきています。(戦前のものは上の年表中に赤字で表記、戦後のものは2面の年表を参照)

それに加えて、例えば明治時代には日本で最初の感化院を開いた池上雪枝をはじめ、中之島に大阪婦人ホームを設立した林歌子など、大阪では女性の活躍が目立つのも特筆すべきことです。

現在コロナ禍のもと、こうした活動は大変難しい局面を迎えています。しかし、だからこそ人々は分断されるのではなく、社会全体として協力しあえる、新しい仕組みがここから発想されてくることを私は期待しています。

かつて聖徳太子が四天王寺を開き、窮民を救ったとされる悲田院が、日本の社会福祉の始まりと言われます。時代は下り、近世から激動の近代へ、大都市・大阪では社会の歪みが拡大し、人々はさまざまな苦難に直面しました。そこに、深い感性と見識を持つ、官民のキーパーソンたちが立ち上がり、未来を開きやす問題の本質を捉え、自らへ導く多彩な社会事業を構想し実践していききました。コロナ禍の今こそ、学ぶべき足跡がこの地には深く刻まれているのです。

大阪の社会事業関連年表

この頃、天保の大飢饉 天保4年 大塩平八郎の乱 1837

明治維新 1868 淀川大洪水 明治元年

1869 浪華仮病院^{※1}開設

1875 大野唯四郎が大阪で初めての孤児院、愛育社創設

1879 小林佐兵衛の困窮者支援

1883 池上雪枝が日本最初の感化院^{※2}創設 (2面地図③⑤)

1885 聖バルナバ病院開設 (23年に「川口から天王寺の細工」に)

1887 桃山遊病院^{※3}開設 (89年から市立)★1

1888 緒方惟準らが貧民医療のために大阪慈善病院(大阪慈善会)設立

1889 新町で大火 コーラ大流行 1890 キリスト教の児童施設、博愛社発足

1894 日清戦争(～'95) 1897 第一次市域拡張

1902 若田民次郎が大阪養老院開設

1903 大阪で全国慈善大会開催

1904 日露戦争(～'06)

1907 府立の感化院^{※2}修徳館開設

1909 林歌子らが大阪婦人ホームを開設

1909 石井十次が大阪初の保育所、愛染橋保育所を開所★2。同情館を開設

1911 大阪毎日新聞慈善団設立

1912 中村三徳らの尽力で釜ヶ崎に大阪自強館設立

1912 大正元年 弘済会設立(13大阪慈善会と合同)

1913 小川滋次郎、大阪府の救済事業指導囀託に就任

1914 四恩学園(児童福祉施設)の前身、浄土宗の四恩報答会設立

1917 日本建築協会設立(当時：関西建築協会)

1917 石井記念愛染園設立(石井十次が遺した事業を受け継ぐ)

1918 市立公設市場開設(当初は、天王寺、谷町、堀川、福島)

1918 大阪府方面委員制度発足(のちの民生委員制度のはじまり)★4

1919 大阪府立児童相談所及び市立託児所開設★5

1919 大原孫三郎が大原社会問題研究所開設★7

1919 大阪市営の住宅供給及び市営共同宿泊所開設

1920 北市民館開設(市立市民館、初の公営セツメント)★8

1921 市立堀川乳児院開設

1922 初の点字新聞(大阪毎日新聞社が「点字大阪毎日」として発行)

1923 大阪市立協会設立(月刊誌「大阪」創刊)

1925 大阪府立協会設立(月刊誌「大阪」創刊)

1929 昭和4年

※1 仮病院では診療と医療教育を行った

※2 感化院とは今日の児童自立支援施設

※3 遊病院は当時の感染症専門病院

※4 セツメントは隣保館と呼ばれる地域福祉の拠点

スペイン風邪、大阪でも猛威！

1918★6
大正7年

大阪では、1918年から翌年にかけて、スペイン風邪と呼ばれるインフルエンザが大流行。府内で死者約1万1千人、患者数47万人に達した(これ以前、1886年のコレラ大流行に付随した遊病院が設立されている)。



1918.8.8 東京朝日新聞

1918.11.6 九州日報

人々の生活事情を知り柔軟に対応すべし！

1918★3
大正7年

安立町(現住之江区)で実施された米の販売の様子を描いたもので、右には同事業への金品寄付者の名が並ぶ

大阪米騒動図(大阪市史編纂所蔵)

1918年、米価騰貴に民衆が米屋を襲った米騒動は、瞬時に全国に広がり、社会を大きく揺るがせた。これは、日本における社会事業の方向性を大きく変えたと言われている。日常的な調査活動を通じ、困窮者の生活事情に柔軟に対応する新しい福祉の形が模索された。大阪では、事態収拾のため集められた米蔵先売の資金の残金を府府で折半し、大阪府(林市蔵知事)は方面委員制度のために、大阪市(池上四郎市長)は市民館の設立に活用、独自の手法での試みが実施された。

困窮者の実情を調べ手を差し伸べよ！

大阪府は方面委員(のちの民生委員)制度を創設

1918★4
大正7年



小川滋次郎 (1864～1925)

大阪府の救済事業指導囀託に就任した彼は、林市蔵府知事の方面委員制度の設立に尽力した。

米騒動を契機に、大阪府が1918年10月に創設した方面委員制度。方面は学区を基本単位とし、委員15～20人を配した。委員は無償で、行政機関から委嘱を受け、区域内の困窮者の実情を調査し、医療保護、職業紹介、乳児の保護などを行った。この制度はやがて全国に広がり、のちの民生委員制度につながっていった。



市立産院 (『大阪市大観』1925)

市立託児所 (『大阪市大観』1925)

市立市民館(のちに北市民館) (『大阪市大観』1925)

志賀志那人 (1892～1938)

志賀志那人 (1892～1938)

志賀志那人 (1892～1938)

志賀志那人 (1892～1938)

志賀志那人 (1892～1938)

志賀志那人 (1892～1938)

天六に日本初の公立セツメントが誕生！

1921年6月に天神橋筋六丁目交差点の東側に開設された北市民館。鉄筋コンクリート4階建ての建物で、地域社会の福祉を図る公設セツメント(隣保館)として、初代館長志賀志那人の実践の道で知られた。館内に診療室、図書室を設け、地域社会教育や乳幼児、児童の保護など多様な試みがなされて大阪市の社会事業の一大拠点となった。市立市民館(のちに北市民館) (『大阪市大観』1925)

市立市民館(のちに北市民館) (『大阪市大観』1925)

市立市民館(のちに北市民館) (『大阪市大観』1925)

市立市民館(のちに北市民館) (『大阪市大観』1925)

市立市民館(のちに北市民館) (『大阪市大観』1925)

市立市民館(のちに北市民館) (『大阪市大観』1925)

社会事業の先進地だった大阪

江戸時代の大阪では、町橋や堀割の整備など、町人の方で社会基盤の多くが整備されてきた。こうした伝統は近代になっても引き継がれて、多くの社会事業や市民活動が大阪から始まって全国に普及していった。その際、民間が、企業や行政と連携して事業を推進したのも大阪の特色と言えるでしょう。

明治時代以降、近代の大阪では、都市化と急激な工業化の進展により、貧困や健康、教育面などで、さまざまな社会問題が頻発しました。そんなとき困っている人を見て「ほっとかれへん」と思ったら、すぐに行動を起こす人が出てくるのは、大阪の風土や大阪人の気質だとと言えるかも知れません。実際、明治時代の災害救済金や大正時代の方委員(のちの民生委員)をはじめ、戦後でも病院ボランティア、ボランティアセンター、救命救急センター、ホスピス、コミュニティ財団など、今に続く社会課題解決への取り組みが、数多く大阪で生まれてきています。(戦前のものは上の年表中に赤字で表記、戦後のものは2面の年表を参照)

それに加えて、例えば明治時代には日本で最初の感化院を開いた池上雪枝をはじめ、中之島に大阪婦人ホームを設立した林歌子など、大阪では女性の活躍が目立つのも特筆すべきことです。

現在コロナ禍のもと、こうした活動は大変難しい局面を迎えています。しかし、だからこそ人々は分断されるのではなく、社会全体として協力しあえる、新しい仕組みがここから発想されてくることを私は期待しています。

参考文献：大阪・シヤルワーカー協会「大阪の誇り」福祉の先駆者たち2013、「大阪の誇り2」米騒動と社会福祉2018、「大阪歴史博物館」特別展 大阪の米騒動と方面委員の誕生2018、「大原社会問題研究所100年史」法政大学大原社会問題研究所2020、「大阪市大観」1925(大阪市立図書館デジタルアーカイブ)

この地で次世代を育む、社会事業の原点再び

大阪・上町台地周辺には、近代日本をリードした社会福祉・社会事業の跡が点々と残され、そのDNAを受け継ぐ福祉施設や歴史ある団体が、今も数多活動を行っています。その傍らに、この地から、新たな時代の本質に迫る実践が生まれ、息づいています。これからを生きる子どもたちのために、子どもたち自身が自らを表現する力、格差や障害を越え学ぶ力を育み、食を通して健康を支える、生命の輝きの原点から、未来の社会をみつめる取り組みのいくつかをご紹介します。

特定非営利活動法人 Silent Voice

全国でも珍しい常設型のろう・難聴児専門の総合学習塾「デファアカデミー」では、手話にとどまらず、子どもたちのコミュニケーション能力の全般的な育成に努めている。2020年春からは、コロナ禍のもと、各地で学校が休校になるなど、ろう児・難聴児の孤立化状況に対して、手話を用いた無償でのオンライン教育サービスを展開している。

子どもたちが「自分らしく」生きるために

Silent Voice代表 尾中友哉さん
私自身、両親がろう者で、手話を第一言語として育ちました。その母は、聞こえないからこそ自分の自分や幸せなことがあるのだと明るく言います。「障がい」も捉え方次第で意味が大きく変わってくるようです。だから、ろう児・難聴児たちにも、自分らしい人生を歩んでもらいたい。社会というのはコミュニケーションの連続に思えます。ろう児・難聴児も、手話だけでなく、文字やメール、SNSなどでも自己を表現し、つながりをつくりだす時代になってきました。聞こえないからこそ自己に合った表現力や感受性の強みをいかして、聞こえない子どもたちが「自分らしく」生きることができると信じて伝えていきたい。



空掘ことば塾

対話の力を育み、しっかりと自分の「ことば」をもって判断できる人間になってほしい。ひとりひとりの個性を開花させる「自由への教育」を目標に、上町台地の空掘という地域に根ざした文化教育の実践にも努めている。従来は、アクティビティとか対面性を重視してきたが、コロナ禍のもと、現在、小学生はコロナ対策をした対面のかたちで対応し、中高生はオンライン授業も併用。

「ことば」をキーワードに世界を広げる

空掘ことば塾主宰 嶋狼星（はなわろう）さん
私自身、20〜30代の頃に携わっていた人類学の調査研究の経験から得たのは、「ことば」と「からだ」の重要性です。地球上のどの地域でも、「ことば」を使ってコミュニケーションし、「からだ」で触れ合う。家族を中心に育てた中で、外部にコミュニケーションをつくる。根本は同じなんです。現在のコロナ禍の状況も、新しい時代を拓く転機と捉えたい。世の中何が起ころうか分からない。だからこそ、レジリエンス（耐性）が大切。この夏は子どもたちに、オンラインでミシェル・エンゲルの「はてしない物語」を毎日朗読しました。むしろ、日本の地域から「ことば」を通して世界とつながる機会が生まれていく気がしています。

「戦後 大阪ではじまった市民活動関連年表」

(1面左下コメント・早瀬昇氏提供資料より)

- 1962 病院ボランティア活動(淀川キリスト教病院で始まる)
- 1965 ボランティアセンター(ボランティア協会大阪ビューロー・現・大阪ボランティア協会発足。現存するボランティアセンターとして最古)
- 1967 救命救急センター(大阪大学医学部附属病院に特殊救急部開設)
- 1971 公共広告機構(関西公共広告機構)として創設。1974年に公共広告機構に改称)
- 1973 有償ボランティア※(「ボランティア労力銀行」が創設)
- ※ ホスピス(淀川キリスト教病院にホスピス・ケアを提供する病床を開設)
- 1975 障害児向けおもちゃ図書館(大阪おもちゃライブラリー)が誕生
- 1976 ボランティアコーディネーター(日本初のボランティアコーディネーター講座を大阪ボランティア協会が開始)

※「有償なのにボランティアと呼ぶのはおかしい」との批判はあったものの、実利も重視するのは大阪的か? 「有償ボランティア」という呼称には問題があると思われる。(早瀬昇氏)

※コメント内の写真には、2020年4月の緊急事態宣言以前に撮影されたものや昨年のもものも含まれています。

遥かなる社会福祉の源流から、激動の近代を支えた社会事業の奔流へ、その先へ...



特定非営利活動法人 クロスベイス

「学習サポート教室」や「体験活動事業」などを通して、外国にルーツを持つ子どもと日本の子どもが「ともに学ぶ」ための学校外の教育機会を保障。あわせて、寛容で活力ある地域社会の創造を目指し、未来に生きる子どもの基礎学力と「生きる力」を育むとともに、人生の選択肢と可能性を豊かにすることを目的に活動。

差別と貧困をなくし、ともに生きる社会のために

クロスベイス代表 宋 悟(そん お)さん
生野区では現在、住民の5人に1人が外国人。うち80%強が在日コリアンですが、最近ではベトナムの人の増加が顕著で、全体で60か国以上の国籍の人々が暮らし多国籍・多民族のまちへと変化しつつあります。同時に、生野区の就学援助率は34.6%(2016年)で、全国平均の2倍以上という現状もあります。多文化共生と格差の問題が「重層的」に連関しているこの地域。逆に見ると、日本でこぼれ「世界」に近い場所はないでしょう。だからこそ、その現実日本の未来につながる社会的資源だとも言えるはずです。私は、ここで活動から、きっと新しい社会への方向性が見えてくるだろうと思っています。



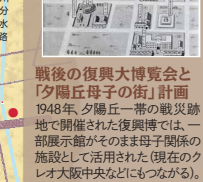
2017年から、大阪・生野コリアタウンを拠点とし、子どもの教育格差の是正と地域まちづくりに取り組む。



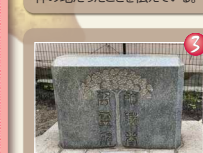
2か所ある学習サポート教室には、現在8つの国と地域の子どもが通う。民族のルーツや家庭環境の格差が、学力や進路の格差につながるよう、子どもたちの学びを応援。



ここでは、すべての子の可能性を信じ、寄り添い励ますが、命令したり、禁止したり、他人のひとと比較はしない。



戦後の復興大博覧会と「夕陽丘母子の街」計画
1948年、夕陽丘一帯の戦災跡地に開催された復興博では、一部展示館がそのまま母子関係の施設として活用された(現在のクレオ大阪中央などにもつながる)。



石井記念愛染園発祥の地碑
元の日東小学校の敷地内に立つこの碑が、付近が愛染園発祥の地だったことを伝えている。



市立桃山病院の慰霊碑
現在の天王寺区筆ヶ崎町に明治期に設立された伝染病療養所の関係者、患者の慰霊碑。当時流行したコレラ等の感染症の患者を収容して治療にあたった。



大原社会問題研究所跡
四天王寺の近傍。現在の大阪府夕陽丘庁舎の裏のプレートが、同地かつての研究所があったことを物語っている。

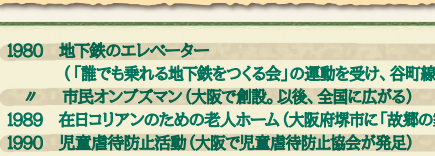
「大正八九年流行感冒病死者群衆」供養塔
一心寺にあるこの碑は、100年前に猛威を振るった「スペイン風邪」の犠牲者を供養するもの。

こども食堂 天使のミール go-on

生野区にある「天使のシフォン go-on」のお店で、ボランティア団体(大阪市福祉協議会に登録)の慈善事業として実施されている「こども食堂」。地域の子どもの健康と、その子を育てる保護者の方の負担がほんの少しでも軽くなるようにという、店のオーナー 藤井恵さんの思いからじまっています。グルテンフリーで、健康に良い食材を使った、おいしい食事の提供を目指している。

健康的で持続可能な食を提供したい

天使のシフォン go-on オーナー 藤井 恵さん
小さい子を連れてお母さんや、小学生の女子が友達同士でやってきて、楽しそうにおしゃべりしながら、時々「これ美味しい〜」と笑顔。それを見るだけでうれしいですね。私自身、生野区で子育てで、地域のみなさんに、ほんとお世話になりました。ここは、その恩返しとして始めたのです。名前の「go-on」には、「続くいく」に加え、「御恩」の意味をこめています。ここで出す料理はすべてグルテンフリー。地域の子どもや保護者の方に、できるだけ健康的で、手間をかけたものを提供するともに、環境にもやさしい持続可能な食についても考えていただける機会になればと考えています。



- 1980 地下鉄のエレベーター(「誰でも乗れる地下鉄をつくる会」の運動を受け、谷町線・喜連瓜破駅に設置)
- 市民オンブズマン(大阪で創設。以後、全国に広がる)
- 1989 在日コリアンのための老人ホーム(大阪府堺市に「故郷の家」を開設)
- 1990 児童虐待防止活動(大阪で児童虐待防止協会が発足)
- 1991 コミュニティ財団(大阪コミュニティ財団が発足)
- 1995 災害ボランティアセンター(阪神・淡路大震災の被災を受け、大阪ボランティア協会や大阪YMCAなどが協働で「被災地の人々を応援する市民の会」創設)
- 1996 株主オンブズマン(大阪で創設。2019年に解散)
- 2003 ビッグイシュー(大阪で「ビッグイシュー-日本」が発足)
- 2004 コミュニティソーシャルワーカー(大阪で初めて導入)
- 2010 まちライブラリー(大阪に「ISまちライブラリー」が開設)
- こどもホスピス(コミュニティ型子ども向けホスピスとして「TSURUMI こどもホスピス」開設)



子どもにも大人にも健康的な、野菜たっぷりの料理。食材も多くを支援者からいただきたことで、「周囲のたくさんの方に支えられている」と藤井さん。

